愛媛県がん診療連携協議会の活動

独立行政法人国立病院機構四国がんセンター
統括診療部長
橋根勝義

四国がんセンターの状況

～2006年 （病院移転前）	2006年4月 ～2018年1月	2018年2月 ～ 現在
一般病棟　360床	７対１専門　376床	７対１専門　289床
	ICU　4床	ICU　4床
	緩和ケア病棟　25床	緩和ケア病棟　25床
		地域包括ケア病床　50床
総病床数　360床	405床	368床

近年、平均在院日数の短縮と病床利用率の低下が進んだため、
７対1病棟を2棟閉鎖し、地域包括ケア病棟を1棟開設した。

愛媛県がん対策への関わり

愛媛県がん対策推進委員会（委員長谷水正人、委員羽藤慎二）

- 愛媛県がん対策推進計画の策定
- 愛媛県がん相談支援推進協議会（羽藤慎二、灘野成人）
  - がんサポートサイトえひめHPの運営（事務局四国がんセンター）
- 愛媛県在宅緩和ケア推進協議会（ベテル病院中橋 恒）
  - ①在宅緩和ケアチーム連携モデル事業（谷水正人）
    - 今治、大洲、八幡浜、 宇和島、西条
  - ②松山市多職種連携モデル事業（宮脇聡子）
  - ③愛媛県在宅緩和ケア人材育成研修会（成本勝広）

愛媛県がん診療連携協議会（事務局四国がんセンター）

- 6専門部会＋PDCA部会
- 愛媛県がん登録は県からの委託

がん診療機能の充実

- がん相談支援センター　（平成16年4月～）
- セカンドオピニオン外来
- WOCケア（皮膚・排泄領域ケア）外来
- リンパ浮腫外来
- がんドック　（平成17年2月～）
- 遺伝性がん診療科（家族性腫瘍相談外来）　（平成19年4月～）
- がんリハビリテーション　（平成23年9月～）
- がん患者カウンセリング外来　（平成24年4月～）
- 緩和ケアセンター　（平成26年4月～）
- 患者・家族総合支援センター「暖だん」　（平成26年6月～）
- 原発不明がん外来　（平成28年5月～）
- 地域包括ケア病棟開設　（平成30年2月～）
- がんゲノム医療外来　（平成30年9月～）
- サーベイランス外来（ハイリスクがん検診）　（平成30年9月～）
- 臨床検査室・病理検査室のISO15189認定　（平成31年6月）

愛媛県がん診療連携協議会

- 役員会1回/年、幹事会2回/年、合同専門部会2回/年、
- 専門部会はそれぞれに個別で活動
- 議事録等は http://www.shikoku-cc.go.jp/conference/ に公開

役員会

愛媛県がん診療連携拠点病院の院長
愛媛県地域がん診療連携拠点病院の院長
愛媛県がん診療連携推進病院の院長
緩和ケア病棟を有する医療機関の院長
愛媛県がん対策推進委員会の会長
愛媛県がん診療連携協議会幹事会の幹事長
愛媛県保健福祉部の健康衛生局長
愛媛県医師会会長
愛媛県歯科医師会会長
愛媛県薬剤師会会長
愛媛県病院薬剤師会会長
愛媛県看護協会会長
愛媛県のがん患者会の代表者
その他、議長が適当と認める者

事務局

幹事会

愛媛県がん診療連携拠点病院の代表者
愛媛県地域がん診療連携拠点病院の代表者
愛媛県がん診療連携推進病院の代表者
愛媛県保健福祉部の代表者
愛媛県医師会の代表者
専門部会の部会長

部会長　山下 素弘（四国がんセンター）
副部会長　青儀健二郎・寺本典弘（四国がんセンター）

PDCA部会

専門部会

がん地域連携専門部会

部会長　橋根勝義（四国がんセンター）
副部会長　柚木 茂（松山市民病院）
羽藤慎二（四国がんセンター）

緩和ケア専門部会

部会長　成本勝広（四国がんセンター）
副部会長　中橋 恒（ベテル病院）

がん相談支援専門部会

部会長　灘野成人（四国がんセンター）
副部会長　塩見美幸（愛媛大学附属病院）

がん登録専門部会

部会長　寺本典弘（四国がんセンター）
副部会長　松元隆（愛媛大学附属病院）
井上武・椿雅光（愛媛県立中央病院）
松影昭一（市立宇和島病院）

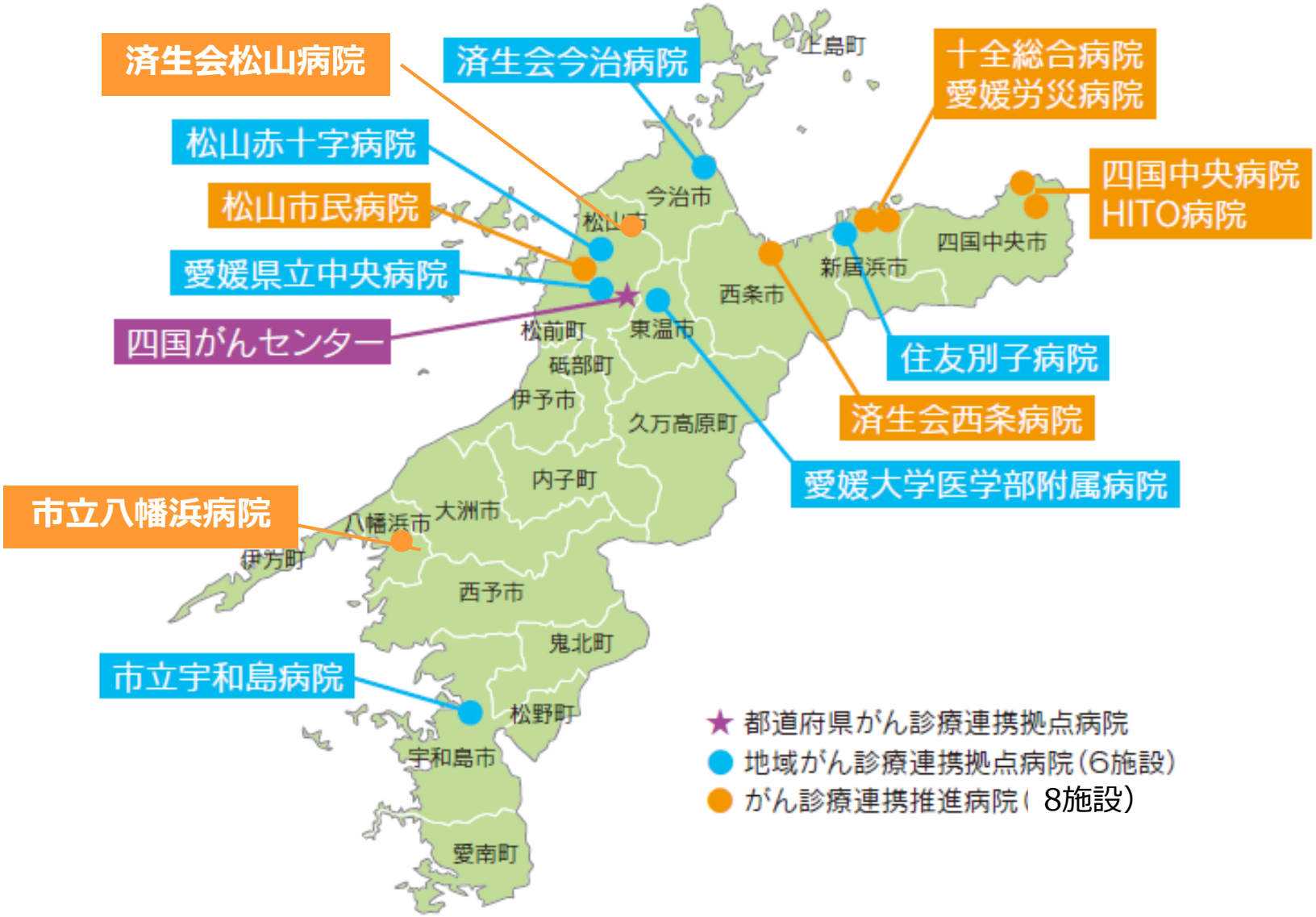
がん集学的治療専門部会

部会長　青儀健二郎（四国がんセンター）
副部会長　竹内信人（市立宇和島病院）
岸田恵（四国がんセンター）

がん看護専門部会

部会長　多田清美（四国がんセンター）
副部会長　中橋惠子（市立宇和島病院）
守屋昭子（住友別子病院）

2019.4.1


済生会松山病院
済生会今治病院
十全総合病院
愛媛労災病院
松山赤十字病院
四国中央病院
HITO病院
松山市民病院
愛媛県立中央病院
四国がんセンター
住友別子病院
済生会西条病院
愛媛大学医学部附属病院
市立八幡浜病院
市立宇和島病院
上島町
今治市
松山市
四国中央市
新居浜市
西条市
東温市
松前町
砥部町
伊予市
久万高原町
内子町
大洲市
八幡浜市
伊方町
西予市
鬼北町
松野町
宇和島市
愛南町
都道府県がん診療連携拠点病院
地域がん診療連携拠点病院（6施設）
がん診療連携推進病院（ 8施設）

がん地域連携専門部会

地域医療連携室の取り組み

- 各拠点病院・推進病院が情報を持ちよって情報交換（議事録に載せられない情報も多々あるが、その分連携はスムーズになった）
- 毎回2施設程度が病院の現状などを報告
- 情報通信ネットワークを活用した地域連携システムについて

地域連携パス

- 連携をスムーズにすすめるために術後連携パスを作成し公開（県下統一）
- 乳がん・前立腺がんをはじめ現在10種類
  - 発熱性好中球減少に対する予防的G-CSF製剤使用のための地域連携パス(G連携)
- 連携パスのアンケート調査を実施（2018年）

アンケート調査の結果と考察

- 愛媛県の地域連携パス開始から8年が経過した。今回、地域連携パスを用いた診療を行っている県内の医療機関対象のアンケートを実施し2014年の結果と比較検討した。
  - 「業務量」に差はみられなかった
  - 「増収」に寄与した医療機関は増加した
  - 「メリットがある」答えた医療機関は増加し「どちらともいえない」は減少している
  - 書類作成の負担を抱えているが、がん診療における自院としての役割分担が明確となり施設間の信頼関係や 医師との交流が深まり、相談・連絡がしやすくなった 、患者の診療情報が共有でき紹介しや　すくなったとの声が多く上がった
  - 県内の医療機関におけるがん地域連携パスのデメリットは、事務手続きや書類管理に対する負担があがり、メリットとして、役割分担の明確化、患者情報の共有、関係性の構築が図れたなど「がん診療の均てん化」にむけた取り組みとして患者主体の連携において効果的なツールであることが示唆された
- 「私のカルテを用いた診療」を受けた患者への意識調査を解析中（約600例）

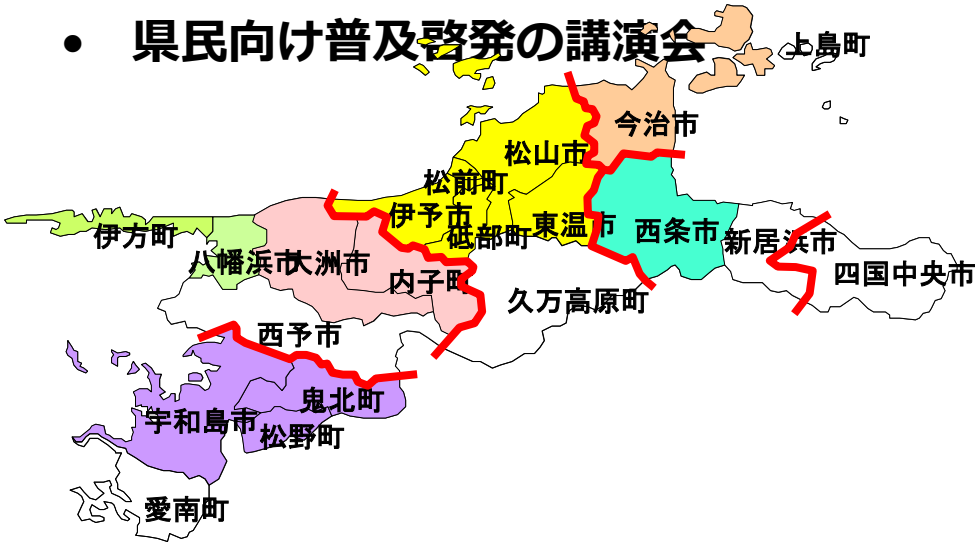
緩和ケア専門部会

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）とは

- 「人生会議」
- 将来の意思決定能力の低下に備えて、今後の治療・療養について患者・家族とあらかじめ話し合うプロセス
  - 現在の気がかり
  - 患者の価値観や目標
  - 現在の病状や今後の見通し
  - 治療や療養に関する選択肢
- グループワークで実践

愛媛県在宅緩和ケア推進モデル事業

- 地域医師会との共同体制の構築
- 在宅緩和ケアコアメンバー、コーディネーターの育成
- コアメンバーによる在宅緩和ケアの実践
- 在宅緩和ケアに関わる人たち（医療・介護・福祉）対象の勉強会
- 県民向け普及啓発の講演会



がん相談支援専門部会

- 各ワーキンググループの活動報告

- がん相談員研修ワーキング
  - 平成30年度第１回研修会報告
  - QA研修会in高知の報告
  - 第3期計画における県内の相談員研修受講について（継続研修の必要性）
  - アンケートの実施
- サロン担当者交流・検討ワーキング
  - 町なかサロン見学会
    - 平成31年1月22日（火）　13：30～15　町なかサロン
- チェックリストワーキング
  - チェックリストの提出状況の報告と今後の予定
- 広報活動ワーキング
  - 平成30年度活動報告
    - フジ健康フェスタ、リレー・フォー・ライフ、すごいもの博2018

がん相談支援専門部会

- 協議事項
  - サロン担当者交流会WGの活動について
  - 豪雨災害時の対応報告および災害時の連絡体制の検討
    - 緊急連絡網の作成整備やメーリングリストの作成・管理・更新
  - 地域相談支援フォーラムでの愛媛の先駆的取り組みおよびがんサポートサイトえひめの活用方法の検討
  - がん相談支援センターの内規について
- その他
  - 愛媛県がん生殖医療ネットワークについて（愛媛大学病院）
  - がんと遺伝のセミナー「メディカルスタッフのためのがんと遺伝」
    - 平成31年3月23日開催　（四国がんセンター）
  - がんサポートブックえひめの増刷の相談

愛媛県がん登録専門部会の特徴

- 県拠点病院が県(地域)がん登録も担当する

がん登録専門部会の目的

『院内がん登録の精度向上・維持、地域がん登録/全国がん登録のサポートを行い、精度の高いがん登録を利用するための場を提供することです』(愛媛県がん診療連携協議会HP)

＊没交渉になりやすい『院内がん登録』と『地域がん登録』の間で人的資源の共用、知識/情報の共有

- 多施設から多様な関係者の参加
  - 実務者・病理医・疫学医師・放射線科医・婦人科医など
- 専任の事務局　→　病院間の綿密な連携
- 県内にがん登録に対する理解者が多い

がん登録専門部会

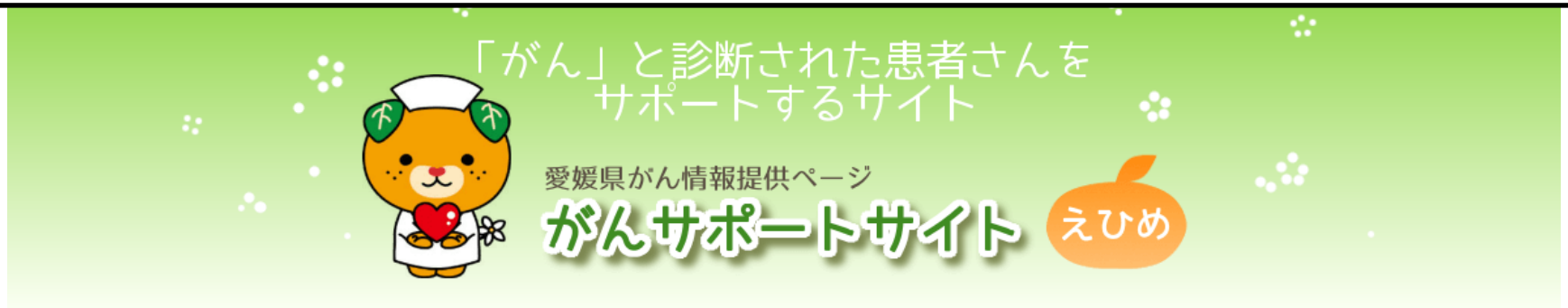
実務者研修会

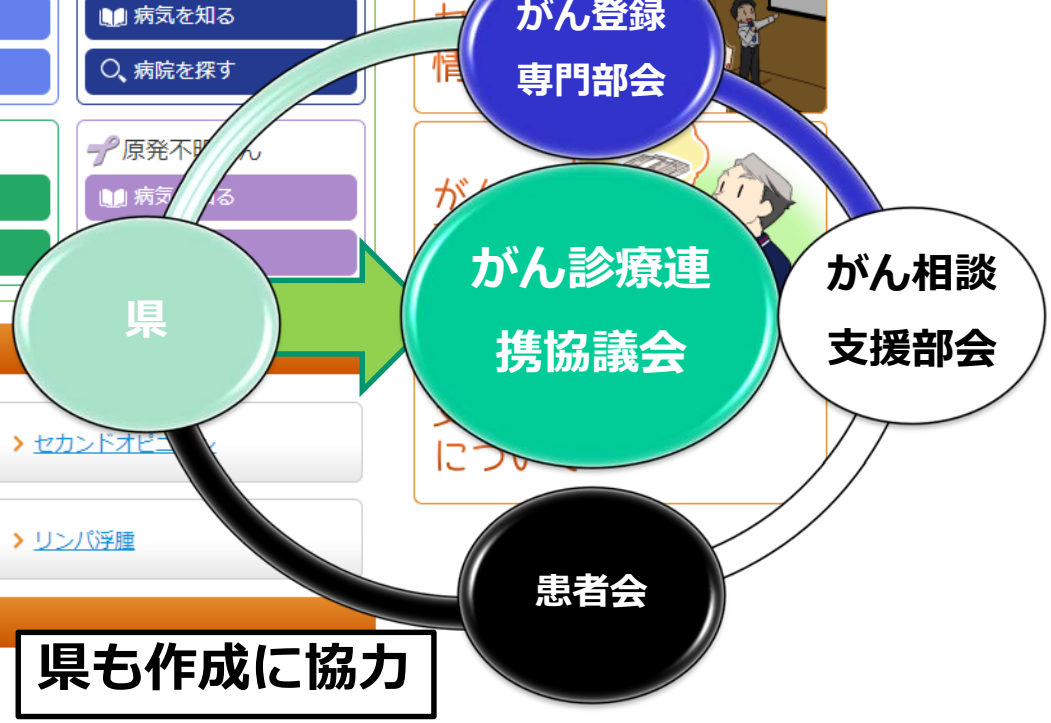
- 実務を意識し、実習を中心とした研修会
  - 全国がん登録研修会
  - 院内がん登録研修会
    - 通常会や多彩な研修会
    - 『腫瘍登録士のための五大がん登録講座』など

院内がん登録情報・解析研修会

- 『愛媛県がん診療連携協議会の事業』という枠設定
- 愛媛県内全拠点・推進病院の院内がん登録データを集計し、解析
- 毎年の冊子作成
  - 『がん登録で見る愛媛県のがん診療』
- 愛媛県のがん診療の概略はこの本で把握できる

がんサポートサイトえひめ（愛媛県がん情報提供サイト）作成





愛媛県が『がん対策推進計画』の一環としてがん情報サイト作成をがん診療連携協議会に委託

がん登録専門部会・相談支援部会・患者会が中心となり、患者目線のがん情報サイトを目指す

県も作成に協力

がんの集学的治療専門部会

愛媛GI-SCREEEN

- ゲノム情報を用いたスクリーニングシステム（SCRUM-Japan）
- 四国がんセンターに事務局を開設、2017年7月から連携拠点病院間で登録を開始
- 対象消化器がん
  - 2018年6月末　第2期終了
  - 2018年10月　第2.5期再開（大腸がんのみ）
  - 2018年4月　第3期開始
- 組織から血液検体（リキッドバイオプシー）よるゲノムスクリーニングに変更し対象がん腫が広がる予定

AYA世代対応ネットワーク・妊孕性ネットワーク構築

- 目的
  - 愛媛県内のAYA世代医療対応ネットワーク・妊孕性保持のための対応ネットワークの構築
  - キックオフ会議を2019年1月19日に開催
- 今後の活動
  - 2019年8月1日に四国がんセンターで事例検討会
  - 2020年1月に第2回AYA世代対応ネットワーク・妊孕性ネットワークセミナー開催予定
    - 愛媛県がん診療連携協議会共催
- がん相談支援専門部会、がん地域連携専門部会と連携

愛媛県がん診療連携協議会参加施設における多施設共同抗がん薬曝露実態調査

【目的】
本調査の目的は、多職種で取り組む重要な課題として、愛媛県がん診療連携拠点病院各施設において医療スタッフが抗がん薬投与に関わる際のリスクの実態を明らかにし、院内医療スタッフに対する啓蒙につなげることである

【方法】
実態調査
曝露の測定：薬剤部、通院治療室で合計9ポイント、薬剤は2剤（エンドキサン、5-FU）
定期的にセミナーを開催

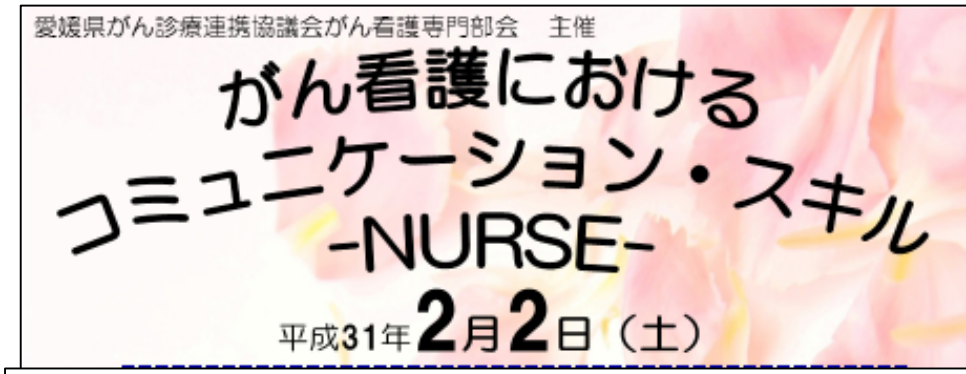
がん診療連携拠点病院7施設、
推進病院5施設参加

		A	B	C
CSTD	調製	ｹﾓｾｰﾌﾞﾛｯｸ	BD	BD
	ルート	ｹﾓｾｰﾌﾞﾛｯｸ	BD＋JMS	NEO SHILD
使用	外来	調製・投与	調製・投与	調製・投与
	入院	調製・投与	調製・投与	調製・投与
対象薬剤	外来	殺細胞	全薬剤	限定
	入院	揮発性	全薬剤	限定
ガウン	外来	―	―	専用
	入院	専用	―	一般
手袋	外来	専用	専用	専用
	入院	専用	専用	専用
保護メガネ	外来	―	―	ｺﾞｰｸﾞﾙ
	入院	Fｼｰﾙﾄﾞ	―	ｺﾞｰｸﾞﾙ

がん看護専門部会

研修を企画

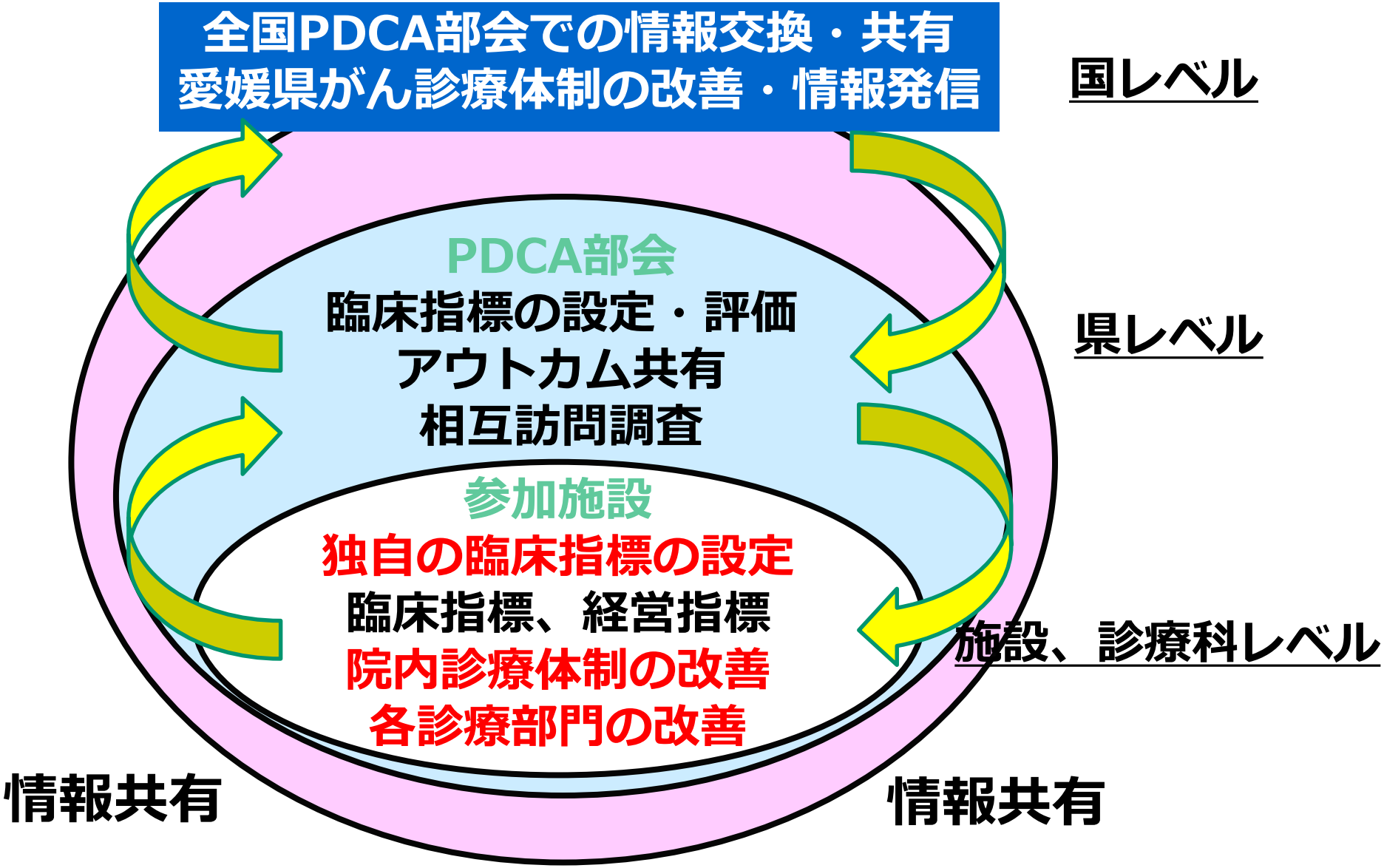
- がん看護実践能力向上研修会
- がんと遺伝
- コミュニケーションスキル NURSE
- ELNEC-J　えひめ
  - （四国がんセンター緩和ケアセンターと共催）
- コミュニケーション研修
- せん妄ケア研修



PDCA部会の活動について

- 目的：愛媛県がん診療連携協議会にPDCA(Plan→Do→Check→Act)部門を設立し、県全体でPDCAサイクルを確保することにより診療体制の充実を図り、県全体の医療提供体制をレベルアップさせ、最終的には県内がん患者の予後改善に資することを目指す。
  - メンバー：各ご施設の幹部クラス1名（院長、副院長等）+実務担当（医療情報担当）1名
  - since 2018/7/28

PDCA部会活動のシェーマ



具体的活動

- 具体的な臨床指標を共有し、各施設における診療体制の充実を目指す。
  - 臨床指標：東京大学水流研究室で行っているがん診療体制における質評価指標
  - 国立がんセンター東研究室：がん登録を用いる質評価指標等
  - 県独自／施設独自の臨床指標の設定も目指す
- PDCA部会において定期的に確認、情報共有する
- 3年に1度、連携病院間における診療体制の相互訪問調査を実施する。
- 国内の先進的なPDCA活動を行っている地方から講師を招き、情報共有する。
- 国立がんセンターを中心とする国内各地方のPDCA活動報告会（「がん診療体制の質評価調査を活用したPDCA報告会」）での活動報告について情報を共有する。

愛媛県がん診療連携協議会の特徴と課題

- 都道県拠点病院ががん専門病院である利点
  - 組織としての意思統一が図られやすく、地域がん医療に協力的な人材が豊富
- 各専門部会でメーリングリストを活用し、部会長のリーダーシップ下に自主的に会合や勉強会を開催している
  - 都道県拠点病院が専門部会の活動を支援
    - 会議費の他、連携推進病院（県指定）の出張費等を支援
  - 県は各種助成金・基金を活用して都道府県拠点病院に関連事業を委託
- 年2回の合同専門部会・報告会により実務者レベルで各部会間の情報共有が行われている
  - 実務者レベルでの士気向上
- 県拠点病院事務局の負担（人材・経費等）が大きいのが課題